

# 宮川の風 第51号

平成30年6月22日(金)発行  
宮川小学校校長室からのたより

自慢したくなるような思い出もあれば、消し去りたくなるような思い出もある。どうもいつまでたっても後者も記憶から消えてはくれません。スポーツでは、歳をとっても若い頃の記憶を脳も身体も覚えています。同じように動くことはとうていできません。無理してケガをすることもあるようですので、記憶に学ぶことも必要です。

自分自身を振り返ってみると、記憶は自分自身を形成している全ての土台としてあるように感じます。記憶があるから今の自分があるのです。ですから、過去の記憶と上手に付き合いながら、これからの人生を楽しく過ごしたいものです。

裏面の記事をお読みください。

みなさんは、記憶力に自信がありますか。都合によって、過剰な記憶力と鈍化した記憶力が交錯する人もいるかもしれませんね。私自身も家族の会話で、まずい方向に話題が進むと記憶をよみがえらせないように話題の進路を変更させようと努力します。冷や汗かきながら・・・

親が子どもを叱るときに、この記憶力が子どもにとって困るものになることがあります。何かというと、一つのことでは叱っているのに、記憶がどんどんよみがえり、もうとっくに終わっている出来事までも引き出しから取り出して、再度起こり始めることです。「あなたは、あのときもこんなことがあって・・・(怒)。それにこんなこともあって・・・(怒!)。さらにこんなことも・・・(怒!!)」子どもはうんざりしてしまいます。結局、最後は何で叱っているのかすらあいまいになってしまうと最悪です。

叱るときは、何が悪くて叱られるのか、これからどうすればよいのかが分かる叱り方が必要です。怒りの引き出しは、ひっくり返さないようにしたいものです。

大阪北部を中心に起きた震度6弱の地震により、多くの方々が犠牲になり、数人の方々が亡くなりました。小学4年生の女の子は、小学校プールの倒れたブロック塀の下敷きになったことが原因でした。

学校では定期的に全職員で校内の安全点検を行っています。危険と思われる箇所については、職員で対処するか、教育委員会に修繕の要望を出したりします。

通学路の安全については、不審者や交通安全の視点からは指導していますが、民家のブロック塀や建物などについては、点検が困難です。このような点については、町内会などとも連携していかなくてはならないと思います。地域全体での情報の共有化が必要だと考えます。

## ある日のできごとから



火曜日に全校朝会がありました。今回は、昭和20年6月17日に起きた鹿児島大空襲のことを、私の母の体験をもとに話しました。話の最後には「平和」について考える時間をもちました。私が子どもたちに伝えた平和とは、「楽しい明日がある」ことだということでした。さらに、こんな話をしました。「平和は待っていれば必ずやってくるものではなく、自分が平和な世の中を創っていくことが大切です。そのために、今は自分の回りの人たちと仲よくし、楽しい学級、楽しい友だち関係をつくっていきましょう。」

成長過程にある子どもたちですから、友だち同士のトラブルは避けられません。しかし、いつまでも長引くようなトラブルにしてほしくありませんし、集団で一人を相手にするようなトラブルも起きてほしくありません。どの子どもも「明日を楽しみにできる」日々が続いてほしいと願います。

火曜日と水曜日に、希望者による「しおり作り」がありました。参加した子どもたちは図書委員会の上級生にアドバイスをもらいながら、楽しそうに思い思いの作品を作っていました。手作りのしおりをお気に入りの本にはさむことを楽しみにしている様子でした。

(文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二)